

2024年5月 | Vol.29

AJWCEF

NEWS LETTER ニュースレター

ご挨拶

オーストラリア日本野生動物保護教育財団会員及びご支援を頂いております皆様へ

皆様におかれましては、平素よりオーストラリア日本野生動物保護教育財団（AJWCEF）の活動にご理解とご支援を賜り誠に有難うございます。

昨年、児童文学作家の今西乃子先生が執筆された「コアラのなみだ」の監修を私が行わせて頂きました。この児童文学は、小学生低学年向けに2019年に実際に起こったオーストラリアの大森林火災による自然環境や野生動物たちへの影響を、主人公のコアラのパマに起こった悲しい出来事として分かりやすく解説し、人と自然や野生動物とのより良い共生について問いかける、SDGsに深く関わる内容となっております。

オーストラリアでは森林火災の原因の約8割が、タバコのポイ捨て、キャンプでの火の不始末など、人の無責任な行為に起因するとされています。そして、この2019年の大森林火災でも約30億匹の野生動物達が焼け死んだり、怪我をしたり、住処を失ったりと様々な被害を受けたと考えられています。

人はいかにも地球が人のみの所有物であるかのように、自らの欲望や利便性を満たすため、我が物顔で多くの自然環境破壊を行ってきました。人は幼いころから学校を含む様々な場所で、自らが人間社会の一員であり、その社会の中で義務と責任を果たすよう多くの教育や指導を受けてきます。そして、成人し社会の中で様々な規則や規範に従って生活を送ります。しかし、人はなぜこれほどまでに自然に対し無責任だったのでしょうか。

「コアラのなみだ」で、森林火災の為に母さんを亡くし、お母さんと暮らしたユーカリの森も焼き尽くされ、帰る住処もなくした主人公のパマが涙を流しながら星空に訴えます。「人間さんをお願いします。ほしいものを独り占めせず、どうか僕たちとなかよくわけっこしてください。」

AJWCEFはこれからも人と自然のより良い共生を目指し活動してまいります。どうか皆様の末永いご支援をお願い申し上げます。



オーストラリア日本野生動物保護教育財団
理事長 水野 哲男

● 2024年夏期 トレーニングコース開催日のお知らせ (応用 / 基礎 コース) ●

第3回 野生動物保護 応用 トレーニングコース	参加者 受付中	8月13日(火)-8月21日(水)
第4回 野生動物保護 基礎 トレーニングコース	キャンセル待ち 受付中	8月26日(月)-9月4日(水)

次の開催は2025年春期(3月)、募集開始は11月から予定しています。

詳しくはHPまで <https://ajwcef.org/> お問い合わせはこちらまで: training@ajwcef.org

基礎トレーニングコース体験記

2024年3月12日-22日

動物、英語まみれの充実した10日間でした。コアラの森林火災のニュースを見かけてからコアラを守りたい、将来はコアラに関わる仕事に就きたいと思っていた私にはぴったりのこの実習をみつけたのは「コアラのなみだ」という本でした。大学生のうちに留学をしたいと考えていて、10日間だし、海外初心者の私にはちょうどいいかもという軽い気持ちで参加しました。空港について1人で職員さんを待つ間はオーストラリアの空気にとっても緊張していましたが、集まると自己紹介から始まって、みんな優しく話しかけてくれたので緊張も和らいで、この先の生活が楽しみになりました。

初日からRSPCAで話を聞いて、保護犬・保護猫が生活している姿を見て、オーストラリアの動物に対する姿勢がよく分かりました。その後、デイビッドフレーで3日間、フリーday、カヤック、コモリについて学んだ後、カランビンで3日間と怒涛の毎日でした。

デイビッドフレーでは、実際に動物のお世話を体験させていただいて、ワラビーやヘビ、トカゲなど様々な生き物に実際に触れました。お世話の時は通訳なしなので心配でしたが、同じチームの仲間の助けもあり、何とかやり遂げることができました。レンジャーさんから動物が大好きなことが伝わってきてとても楽しい実習でした。

カランビンでは動物たちの飼育方法や生態など、調べても簡単にはでてこないような貴重なお話を聞きました。また、病院に入院する動物が野生に戻れるようにするための工夫なども聞いて、オーストラリアならではの感じました。専門的なお話もあり、難しいと感じることもありました。知識を増やせました。毎日動物に会える環境がとても幸せでした。

AJWCEFの職員さんはみなさんとても気さくに話をしてくださいました。実習に関係することでもなくてもおすすめの食べ物や場所を教えてくださいまして、オーストラリアという場所を楽しむことができました。英語で質問できないときは通訳してくださるので、気になったときはすぐに質問ができたのがよかったです。

一緒に参加した仲間たちはとても優しく、毎日気兼ねなく楽しく過ごすことができました。ルームメイトと朝日を見に海岸に歩いたり、スーパーで食べたいものを買ったり、大きな声で笑ったり、すごく楽しい時間でした。また、みんな動物や鳥について教えてくれたり、動物の素敵な写真を送ってくれたり、英語で飼育員さんと会話していたり、誰とでも元気に話していたり、尊敬するところが沢山ありました。そんな素敵な仲間と出会えたことはとても幸せでした。

動物と英語にもまれてたくさんの経験と知識を得ることができたので、これからは活かしていきたいです。10日間とは思えないほど濃い時間でした。



(五味綾音さん 岐阜大学応用生物科学部1年 参加当時)

日本では野生動物を見る機会はほとんどなく、野生動物についての教育もあまりされていないように、人間社会と野生動物が隔離されているのに対し、オーストラリアでは野生動物保護が一般的であり、動物と人が共存できているのを知り、今回のプログラムでそれを目の当たりにしました。街を歩いていると毎日たくさんの野鳥や大きなトカゲに出会えたことが印象的でした。

1日目に行ったRSPCAは、施設が寄付金で成り立っていることや、運営には3000人ものボランティアの方が関わっていることを知り、一般の人の野生動物保護への関心の高さやボランティア精神の高さに感動しました。日本では傷ついた動物を病院に連れて行くとお金などの問題が起きることがあると思うのですが、オーストラリアでは傷ついた動物のための救急車が無料で呼べ、救助のスキルをもった人が対応してくれることで一般の人が動物を助けやすい環境にあるのだなと感じました。

カンビン野生動物サンクチュアリでは、固有種の生態や展示施設、入院施設や傷ついた動物をいち早く野生に戻すための工夫などについて学びました。特に興味深かったのは有袋類の体の構造や繁殖システムや子育てについてで、学校で習う動物とは大きく異なっており、想像できないようなものばかりでした。また、病院で実際の治療を見たことや、コアラの解剖を間近で見たことは日本ではできない貴重な経験となりました。

デイビッド・フレイでは、レンジャーさんの実際の飼育管理の作業を体験させて頂きました。動物に触れ合える機会がとても多く、より近くで動物を見ることが出来て楽しかったです。展示場はとても開放的で、野生に近くストレスを与えないような環境で飼育されていました。何より動物が大好きなレンジャーさんが楽しそうにお世話している姿が魅力的でした。

他の参加者は学校も学年も様々でしたがすぐに仲良くなり、夜ご飯やお弁当を相談して作ったりfree dayに遊びに行ったり、誕生日パーティーをしたりととても楽しい共同生活になりました。似た夢を持つたくさんの仲間に出会えて良かったです。

最後に、質問に丁寧に答えて下さったり、引率して下さったAJWCEFのスタッフの皆さん、実習先の獣医さんやスタッフさんに様々な知識を教えていただいたことにとっても感謝しています。短い期間でしたがとても充実し、楽しい時間でした。本当に参加して良かったです。ありがとうございました！

(K・M 日本獣医生命科学大学獣医学部獣医学科2年生 (参加当時))





臨床トレーニングコース体験記

2024年3月24日-4月1日

4年前基礎コースに参加し、その時から高学年になったら臨床コースに参加しようと思っていました。基礎コースの内容に比べるとより獣医療に関する内容に特化しており、将来野生動物の救護に携わっていききたい身としては、とても勉強になることばかりでした。特に亀の甲羅の骨折の修復法や野鳥の羽のインピンング技術は日本でもすぐに使える技術だと思うので、練習して身につけていきたいです。動物病院の先生やナースさん方もとても優しく、自分の拙い英語でも理解してくれようとしてくださり、いつか先生方と同等に話せるようになりたいと英語を勉強するモチベーションにもなりました。野生動物のケアラーさんのお宅に訪問したこともいい経験となりました。何十頭も野生動物のお世話をし、中には24時間つきっきりでお世話をしなくちゃいけない赤ちゃんもいて、ケアラーさんの野生動物に対する情熱と愛情が直に伝わってきました。

今回、臨床コースで接してきたカランビンの先生方、スタッフさん方、ケアラーさんみなさん、野生動物に対して情熱と助けるんだという強い意志を感じ、今回それに触れることができました。

私もあと1年後には獣医師になる予定なので、情熱と強い意志を持って動物と向き合っていきたいと思っています!



(Y・Iさん 日本大学生物資源学部獣医学科5年生 (参加当時))



AJWCEF で検索

フォローお願いします!!!



今回は昨年8月の応用コースに引き続き2回目の参加で、着いて早々、オーストラリアの大雨にあたりました。オーストラリアではなかなか降らない大雨とのことだったので、本来なら鬱々としたところですが、むしろラッキーだと思えるように気持ちを切り替えました。

実習では、4日間カランビン野生動物専門病院にてオーストラリアの動物の生理や解剖、診断、治療方法を学びました。特に、鳥の翼のインピンギやカメの甲羅の骨折治療などは専用の器具や材料を必要としないため、やり方さえ覚えてしまえば日本でも同じように治療を行うことができます。カランビンの獣医師や動物看護師はとても気さくで、質問にも丁寧にわかりやすく、且つ真摯に答えてくれます。この際、通訳は常にいてくれるので、自分の英語力に自信がなく、参加を迷っている方は安心して参加して欲しいと思います。

5日目のケアラー宅は前回に引き続き2回目でしたが、今回はカモノハシが保護されており、同じく単孔類のエキドナとの違いを学びました。野生ではなかなか見られない動物や、その行動を間近で見ることができ、感動しました。

また、このトレーニングコースではホテルではなく、コンドミニウム形式の宿泊施設に泊まります。スーパーで買い物したり、自分でバスに乗ったりしてオーストラリアの経済状況や文化の違いを実際に体験することができます。日本との違いを肌で感じ、今後の日本や自分の将来について考えるきっかけとなります。

新しい体験や知識にワクワクしたり、勉強不足を嘆いたり、自分の英語力に落ち込んだり、感情が忙しい1週間でしたが、本当に参加できて良かったです！特に獣医学生は、日本にいて自分の視野がすごく狭くなっていることに気が付けるはずですよ。世界は広いです！

最後に、AJWCEFのスタッフの皆さん、カランビン野生動物専門病院のスタッフの皆さん、短い間でしたが、お世話になりました。ありがとうございました。

(M・Hさん 某大学獣医学科5年生 (参加当時))



会員募集(個人・法人)及び寄付のお願い 皆さまのご支援が小さな命を助けます。詳細は、AJWCEFのサイトwww.ajwcef.org『入会・寄付』のページにお進みください。

AJWCEF活動報告

(2023年12月から2024年5月末まで)

ONLINE SEMINAR

オンラインセミナー

- 12月9日 愛知県某県立高校 水野哲男「世界の環境問題とエネルギー」
- 1月23日 札幌市某私立中学校 水野哲男「海洋ごみと海洋生物」
- 1月26日 横浜市某市立高等学校 水野哲男「共生への道標」
- 2月21日 東京バイオテクノロジー専門学校 水野哲男「海洋ごみと海洋生物」

AJWCEF TRAINING COURSE

トレーニングコース

- 3月12日-22日 基礎
- 3月24日-4月1日 臨床

STUDY TOUR

オーストラリアスタディーツアー

- 2月24日-3月4日 日本獣医生命科学大学
- 3月6日-13日 愛知県立某高等学校
- 3月13日/15日 富山県立某高等学校
- 3月18日 大阪府立某高等学校

- 11月-2月 TCA 東京 ECO 動物海洋専門学校 全 15 回
- 3月3日 札幌市立大学 オーストラリアの現役大学生との交流会
- 4月-6月 北里大学 オンライン専門英語講座 (渡航前研修) 全10回
- 5月-8月 仙台 ECO 動物海洋専門学校 全 8 回

ONLINE PROGRAM

オンライン講座

DONATION

寄付

2023年12月～2024年5月期

- UQ Training Centre for Bioplastics and Biocomposites \$300
クィーンズランド大学 バイオプラスチック・バイオコンポジットトレーニングセンター
- Bats Queensland バッツ クィーンズランド \$300
- Wildlife Rescue, Rehabilitation and Education \$1,400
野生動物救護リハビリ教育協会

AJWCEF の収益金の一部はオーストラリアの野生動物保護団体への寄付金とさせて頂いております。

英文記事翻訳ボランティア募集中

AJWCEFでは啓発活動の一つとして、オーストラリアにおける野生動物保護活動や環境問題に関する情報を日本の皆様にお届けするために、当地にて発信されているニュースを日本語へと翻訳をしてホームページのブログへと記載しています。

具体的な活動内容は、AJWCEFスタッフが日本では滅多に報道されることがないようなレアな野生動物保護や環境保護に関する話題を見つけ、その英文記事をボランティアの方に日本語に翻訳をお願いします。その後、AJWCEFのスタッフより翻訳文のチェックをした後にホームページへと記載いたします。

すべてメールでのやり取りとなりますのでボランティア活動に興味があるが多忙で時間の取りにくい方、英語のスキルを磨きたい方などに最適なボランティアです。

ご興味のある方はinfo@ajwcef.orgまでお問い合わせください。

WANTED
Work Together
with AJWCEF

お知らせ

理事長水野が監修 児童書「コアラのなみだ」2023年1月 発売



なぜユーカリの森は燃えてしまったの？ この地球で本当に起きていることから生まれたお話。かわいいコアラを主人公に人間と動物の共生をやさしく語る絵童話です。

【この本のテーマは、「地球はみんなのもの」】

この緑豊かな地球は人間だけのものではなく、共に暮らす生き物、みんなのもの。実際に起こったオーストラリアの大森林火災を取り上げ、親子コアラを主人公に、地球は誰のものなのかを問うおはなしをつくりました。なぜユーカリの森は燃えてしまったのか、どうして森から誰もいなくなってしまうのかを山火事で生き残ったユーカリの視点で語りかけます。

【書籍情報】『コアラのなみだ』今西乃子【著】、水野哲男【監】、サトウユカ【絵】
定価＝本体1,600円＋税 A5/96ページ SBNコード：978-4-7726-1517-4 合同出版株式会社

この写真の橋、何のためのものか分かりますか？

これは野生動物達の分断された生息地を繋ぎ、命を守る特別な橋。

高速道路等、新たに交通開発が行われた際にはその地をテリトリーにしている(もしくは、していた)動物達の生息地分断によるリスクを減らし、交通事故等で怪我をしたり死亡するケースを回避するために作られたものです。人間とオーストラリアの野生動物が共存できる1つの対策と言えるでしょうか。

(AJWCEFインスタグラム掲載(内容一部変更) June 2021)

野生動物雑学ラウンジ
File.2 野生動物との共生の道

AJWCEF

ニュースレター発行元

オーストラリア日本野生動物保護教育財団本部事務局

発行責任者 水野 哲男

編集担当 植木 菜心 / クリス 悠子

ホームページ www.ajwcef.org住所 PO Box 1362 KENMORE,
QUEENSLAND, 4069, AUSTRALIA

電話 + 61 7 3195 4749